

## 血漿分画製剤に関する調査報告書（2016）

一般社団法人 日本血液製剤協会（理事長：秋山 裕治）では、一般生活者および血漿分画製剤使用経験者を対象に血漿分画製剤の意識調査を実施し、その結果を集計・解析した報告書を作成しました。さらに2014年に実施した一般生活者を対象とした意識調査との比較を行いました。

### 【目 的】

2014年同様に一般生活者を対象に血漿分画製剤を開発・供給することの意義、血漿分画製剤使用経験者を対象にインフォームド・コンセントについての実態を把握することを目的とした。

### 【調査方法】

1. 調査機関 一般生活者：2015年10月27日(火)～11月 6日(金)  
使用経験者：2015年11月 6日(金)～11月20日(金)
2. 調査地域 全国
3. 調査手法 インターネット調査
4. 調査対象 一般生活者：全国に居住する20歳以上の男女  
使用経験者：血漿分画製剤を使用したことのある方
5. 有効回収数 一般生活者：2,000  
使用経験者： 500
6. 調査機関 株式会社 日本能率協会総合研究所

### 【調査結果】

1. 血漿分画製剤の認知について  
血漿分画製剤の精製方法、目的についての認知度は2割に満たず、前回の調査同様に、一般生活者にとってはあまりなじみのない医薬品であることがうかがえる。
2. 血漿分画製剤の治療について  
血漿分画製剤を必要とする難病患者が存在することの認知については、一般生活者が15%であるのに対して使用経験者の認知は72%であった。一定の情報を発信しつつ、ユーザーとなる方に安心感を与えるような情報が必要だと考えられる。
3. インフォームド・コンセントについて  
インフォームド・コンセントを受けたと感じた人は6割、平均説明時間は7分、約9割の方が理解できたと回答している。インフォームド・コンセントの満足度は7割程度で、理解度の高さと比較するとやや低いとうかがえる。
4. 調査に使用した資料内容の理解度について  
調査に使用した資料内容の理解は、一般生活者で5～7割、使用経験者の8～9割と比較すると低い。特に安全対策の理解度は5割と低く、血漿分画製剤がなじみのない医薬品であることから、基本的な情報を説明することが必要と考えられる。
5. 今後の血漿分画製剤に望むこと  
使用経験者では安全な血漿分画製剤の安定供給を望んでいることが明らかになった。また、血漿分画製剤についてもっと知りたいという人が多く、継続的な情報提供の必要性が明らかになった。